

授業科目 小児言語障害学 III

【担当教員名】 渡辺 時生		対象学年	3	対象学科	言語
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	2	時間数	30
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎			◎	
【概要・一般目標：G10】 脳性麻痺による障害は運動障害が主体であるが、近年の産科学や新生児医学の進歩により、重複障害が増えてきている。発声発語や摂食嚥下に限らず、知的発達から広くコミュニケーションへの関わりに変化してきた言語聴覚士の取り組みについて学ぶ。さらに、S-S法を中心に、言語発達障害に関する面接、検査、診断、治療の一連の流れを学習する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1 脳性麻痺の概要および運動特徴について理解する。 2 脳性麻痺に由来する言語聴覚障害の特徴を理解する。 3 脳性麻痺の言語訓練および援助の方法を学ぶ。 4 脳性麻痺を中心とした言語発達障害の治療・援助に必要な検査・診断技術を学ぶ。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	脳性麻痺とは（概論）			1	講義
2	脳性麻痺言語の発達障害・話ことばの特徴			2	講義
3	脳性麻痺言語の評価及び支援について			3	講義
4	S-S法の概要			4	講義
5	S-S法の構成			4	講義
6	S-S法を用いた診断			4	講義
7	S-S法の実際			4	講義
8	S-S法検査演習（1）			4	演習
9	S-S法検査演習（2）			4	演習
10	S-S法訓練（1）			4	講義
11	S-S法訓練（2）			4	講義
12	S-S法訓練（3）			4	講義
13	S-S法訓練（4）			4	講義
14	S-S法検査演習発表			4	演習
15	まとめ			1～4	講義（渡辺時生）
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		言語発達遅滞検査マニュアル	小寺富子（編著）、倉井成子 （編著）、佐竹恒夫（編著）	エスコアール	1998・4,500円＋税
参考書		言語発達遅滞訓練マニュアル〈1〉	佐竹恒夫、小寺富子、倉井 成子 他	エスコアール	1995・2,500円＋税
		言語発達遅滞訓練マニュアル〈2〉	佐竹恒夫	エスコアール	1995・3,800円＋税
		言語聴覚療法臨床マニュアル	小寺富子（監修）	協同医書出版	2004・6,800円＋税
その他の資料					
【評価方法】 レポート、定期試験			【履修上の留意点】		